

教学半也



令和5年6月22日
No.3

校内研究
授業改善に
たずさわ
る対象
全読者対象

令和5年5月12、23日 第1回研究主任研修会 協働から生まれる校内研究



今年度1回目となる研究主任研修会。ここでは、地区ごとに、昨年度研究主任として活躍された方に「研究主任の役割と取組、年間の研究推進」についてお話をいただきました。3名の先生方が自校で行った取組を紹介します。

諏訪



岡谷西部中学校
武居 悠輔 先生

<研究主任の役割>

- 1 授業づくりの方向性を示す
- 2 授業力向上の土壌をつくる
- 3 外部とのパイプ役になる

特別な取組ではなく、日常的な授業改善を願い「研究テーマ」を「授業テーマ」と設定しました。同僚の先生方と、自分の実践を「授業エピソード」として共有し、語り合う場を設けています。

④ 現任校での 主な取り組み(1) 「授業テーマ」

(研究テーマではなく)

授業テーマ

「一人ひとりの『声』が響き合う

授業をつくるう！」

～つたえる、つながる、ふりかえる～

→教科をまたいだ研究チーム

※具体的でわかりやすい言葉で表現
「戦時目標とは、竹を割ったように明確なものでなければならぬ」

可馬達太郎『板の上の雲』より

学校教育目標は「自立と共生」

一とにかく、学校に楽しく通ってもらいたい。
そのためには、仲間と関わる楽しい授業にしたい

楽しい授業・つまらない授業



上伊那



伊那北小学校
小田切 亮 先生

<研究主任として何ができるのか>

- 1 新年度スタートに大事にしたいことを訴える
- 2 研究推進だよりで先生方の取組を紹介する
- 3 全体・グループで語り合う機会を増やす
- 4 一人一公開に取り組む

伊那北小で米作りでは、雨が降ると白い水が流れてくることについて職員同士で話し合う時間が楽しかったので、こういう時間を職員室でつくっていくことが研究主任の役割かもしれないと感じています。

おわりに

ただし、やはり授業が勝負！

授業を通して、授業のことを語り合う職員集団にしたい！

その元になる関係性は構築できつつある…

【探究的な学び】をそれぞれの担当が一年間でひとつの単元は…

そのためには、職員同士の支え合いが、やはり欠かせない。

【米作り】→必ず毎週学年で合同授業を取り入れる。

「米作りに必要な水はどこから来ているの？探してみたい？」

この言葉を大事にしながら、これからの活動を思いえがく

下伊那



竜丘小学校
渡邊 玲菜 先生

<研究主任として大切にしていること>

- 1 ちゃんと「わたしの言葉」にして伝える
- 2 その先生の魅力を引き出す
- 3 いつでも主体は子どもたちと捉える

先生方と子どもたちの物語を知りいと
考え、先生方と話す機会をつくっています。
方法論を話し合うのではなく、先生
方の子どもに対する考え方や思いに触
れるところを大切にしています。

その先生の魅力を引き出したい



校内研究や授業改善は、地区や校種、学校によって特色がありますが、根底に流れる大事な部分は、通じるものがあるのではないのでしょうか。「主体は子ども」、だからこそ「語り合う場」を大切にする。3名の先生方とその学校の取組をそれぞれの学校でも生かしていきたいですね。

【特集】探究する授業①

すべての
先生方対象

考えてみよう「探究する授業」

～南信地区 研究主任研修会を通して～

今年度、南信教育事務所では、長野県教育委員会刊行の「教育課程編成・学習指導の基本」（通称青本）にある3つの重点のうちの一つ、資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善である「探究する授業」について、年3回の特集を組み、皆さんと考えたいと思います。

今回は、第1回研究主任研修会において、南信地区の研究主任の先生方と話し合ったことを基に「探究する授業」について考えてみましょう。

「令和5年度 教育課程編成・学習指導の基本（通称青本）」



研修会前、南信地区の研究主任の先生方に、「子どもたちが『探究する』とはどのようなことか」についてアンケートをとったところ、次のような考えが寄せられました。

自らが「知りたい」と思ったこと、「なぜだろう？」と感じたことに対して、様々なアイデアや道具を使い、**試行錯誤しながら**考えを深めていくこと。

問い→学習(調べたり意見を交換したりなど)→問いの答えを見つける→振り返り→新たな問いの発見の**サイクル**をどんどん繋げていくこと。

子どもたち自身が、問いや願いをもとに、自ら課題を設定し、その解決に向けて**自分なりの答え**を探すこと。教師主導の授業でないこと。

考えたくなる問いと出合い、自ら解決したいという願いに基づき、対象に**繰り返し働きかけて**いくこと。その一連の営みのこと。

発達段階に応じて、各教科等の見方・考え方を働かせた「めあて→追究(試行錯誤)→振り返り(次への見通し)」の**サイクルを自身で回す**こと。

自分の問いをもち、その問いを解決するために、情報を集め、精査・分析しながら、**自分なりの答え**を見つけ出していくこと。

研究主任の先生方へのアンケートより（一部抜粋）

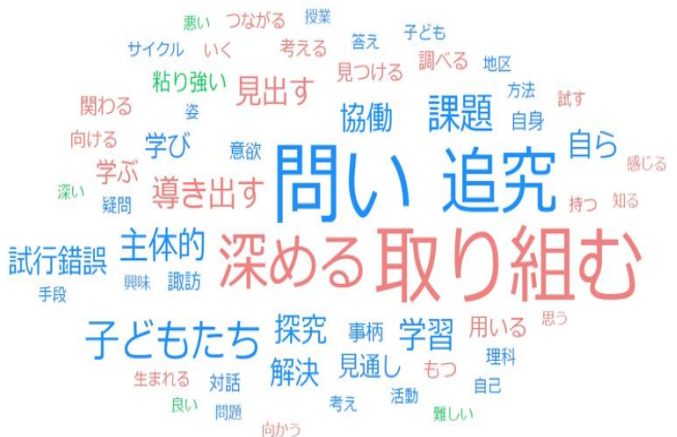


なるほど。研究主任の先生方は、日々の実践における子どもの様子から、一連の教育過程として捉えていますね。

先生方からいただいた考えをテキストマイニングにかけてみると、右のような結果になりました。ご覧になって、どのようなことを感じますか？



文字の大きさや位置は、正解を表していませんが、やはり「問い」が一つのキーワードになりそうですね。





研究主任の先生方は、「探究する授業」について、研究会でどのように共有していったでしょうか。各地区において話し合われた一部を紹介します。



- ・私は、「問い」をもたせるための種まきを大事にしています。
- ・分かります。この部分によって、その後の子どもたちとの学びや学び方が大きく変わっていきますよね。
- ・私はこの種まきがとても楽しいんです。「あの子だったら、この子だったら」と子どもの姿を考えているからです。
- ・その教材、題材について本気になっている自分がいますよね。

- ・「問い」をもつて難しいと思います。教科性によって難易度が違いますか。
- ・「問い」というよりも「願い」と捉えたらどうでしょう。子どもたちの「こうなりたい」「やってみよう」と思っています。
- ・なるほど。「願い」を大切にすると「楽しい」という気持ちにつながりますね。
- ・子どもの素直な気持ちで大切ですね。幼年教育では「遊び」を大切にしています。そこにヒントがあるかもしれません。



- ・教師主導で進めた授業の内容って、子どもたちはあまり覚えていないですよ。
- ・教師が「これって、この前の授業でやったね?」と言っても、子どもたちは、「え?」となる場面ですね。
- ・教師は子どもの姿をよく見て、学習の様子をイメージしながら教材研究し、子どもたちが自ら学んでいける授業をつくっていききたいですよ。
- ・「本気になれる」って大事ですね。



先生方のお話は、青本にある「子供が主体的に追究していくには、『問い』や『願い』が大切である。それらが連続していくことで学びが深まり、さらには、この学びが連続することで子供たちは探究する力を育む」ということにつながっていることが分かります。



図 1

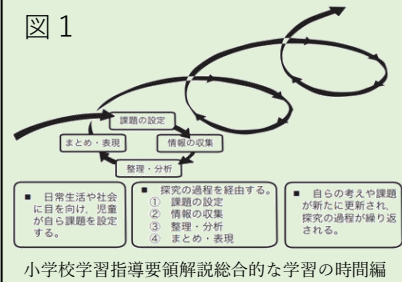


図 1 の「総合的な学習の時間」の探究のプロセスがモデルになりますね。

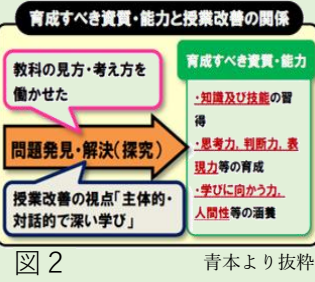


図 2 青本より抜粋

【総則】学習指導要領解説に「児童（生徒）の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る」とあるように図 2 を踏まえることも大切になりそうですね。



「探究する授業」は、資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の一つです。が、そのあり方は一つではありません。南信教育事務所では、今後も学校訪問や研修会を通して、南信地区の先生方とともに「探究する授業」について考えていきます。【特集】探究する授業②を 8 号で、【特集】探究する授業③を 9 号で取り上げる予定です。ぜひ、次回をお楽しみに！！

調査問題を授業改善につなげよう、先生方にひろげよう

～全国学力・学習状況調査を生かした授業改善・充実研修～

5月に、「全国学力・学習状況調査（以下、「全国学調」）を生かした授業改善・充実研修」を開催し、調査問題の出題の趣旨や授業改善のポイント、記述問題等の正答例や採点基準、さらには調査問題を基にした授業改善について、参加者の皆さんと考えました。

さて、ここではまず、「全国学調」の目的を確認します。

「全国学調」の目的

- ①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析する。
- ②教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ③児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ④教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。



「全国学調」はその名の通り、「学習の状況を調査する」ことが目的であるため、点数を競う「テスト」ではなく、学習の状況を把握する「調査」となっています。調査結果を基に、指導改善・学習改善を図るためには、「全国学調」の分析や考察が重要です。

分析を進めていく中で、児童生徒の学習の状況のみならず、先生方の日頃の学習の指導上の課題も浮き彫りになってきます。再度、学習指導要領に立ち返り、育成すべき資質・能力を確認し、指導改善に役立てましょう。

ここからは、国語・算数・数学、英語の研修で扱った内容の一部を紹介します。調査問題、解説資料は国立教育政策研究所のホームページをご覧ください。

小学校 国語

【趣旨】原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる

川村さんは、カードを選んだ際に、【カード②】の――部と、【カード③】の……部に関係があることに気づきました。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 【カード②】の――部は部分、【カード③】の……部は全体について書かれている。
- 2 【カード②】の――部は結果、【カード③】の……部は原因について書かれている。
- 3 【カード②】の――部は目標、【カード③】の……部は計画について書かれている。
- 4 【カード②】の――部は考え、【カード③】の……部は事例について書かれている。

【カード②】

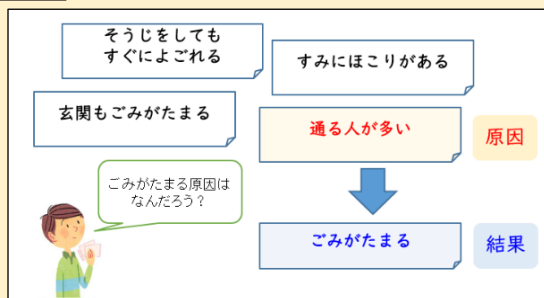
6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。

【カード③】

7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。

授業づくりへの生かし方(例)

複数の情報の中から関係を見だし、結び付けて捉えるため、例えば、5年生の「話すこと・聞くこと」の単元において、右の図のように、付箋などを使って原因と結果を結び付けて捉える場面を設定することが考えられます。教室に「ごみがたまる」のはなぜか、グループで意見を出し合い、メモした付箋の中から原因となるものを選び、矢印でつないでみるだけでも原因と結果について考えることにつながります。このような学習を意図的に積み重ねていくことが大切です。



参加された先生の振り返り



やって終わりになっていた「全国学調」が「授業改善のメッセージ」だということを改めて認識し、学年のつながりを大切にして指導していきたいです。そのためには、6学年だけの調査にならないよう、学校全体で研修していくことが必要だと感じました。

中学校 国語

【趣旨】具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる

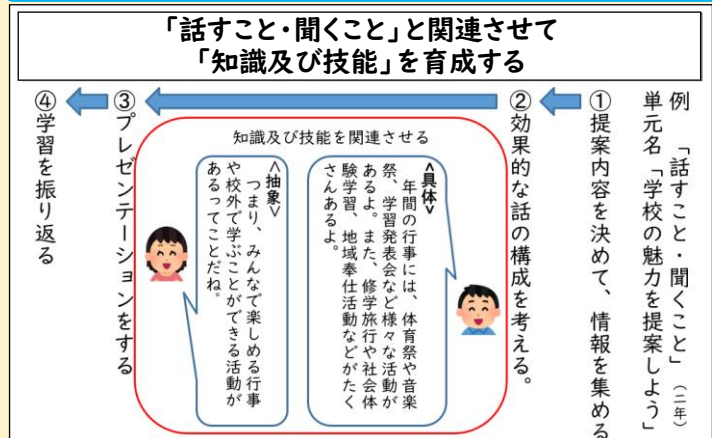
【問題 3】三 古典を読む（「竹取物語」）

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か
 「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。
 (ア) ただし、【図1】のように、描かれているもの【図2】と意味しているものが異なるため、解読するには、「判じ絵」のこと、つまり、知っていることをもとに「おしるって考える」ことが必要になる。(イ) 審みれば、なぜなぞやクイズのようなものなのである。(ウ) また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ) そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、洋書絵とつながりの深い文化として定着していったという。(オ) さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができている。

山田さんは、「■『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで二つに分け、後半のまとまりには分けた内容と合う見出しを付けることにしました。分ける箇所として最も適切なものを(ア)から(オ)までの中から一つ選びなさい。また、後半のまとまりに付ける見出しを考えて書きなさい。

授業づくりへの生かし方(例)



例えば、「話すこと・聞くこと」の単元の中に「情報の扱い方に関する事項」に関わる場面を設定し、上記のように他の内容と関わらせながら、生徒の必要感に沿った学びを展開していくことができそうです。

参加された先生の振り返り



今後の国語科の授業改善やテストの作成に生かしていきたい調査であり、もっと校内の先生方と共有したいです。育成を目指す生徒たちの姿を具体化して、そのイメージをもって授業に臨みたいと思いました。

小学校 算数

【趣旨】()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる

国語辞典と漢字辞典に分けて並べたとして考えます。

わかな

国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さ

一人分ずつ並べたとして考えることもできます。

あきら

国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さ

【わかなさんの式】

$$5 \times 28 + 4 \times 28$$

【あきらさんの式】

$$(5 + 4) \times 28$$

授業づくりへの生かし方(例)

ここでは、 5×28 は国語辞典 28 冊を並べた長さであること、 $5 + 4$ は国語辞典 1 冊の厚さと漢字辞典 1 冊の厚さを合わせた長さであることを読み取る必要があります。教師が「わかなさんとあきらさんの式の波線の部分は何を表しているのかな？」と問うと、「 5×28 はなんとなく分かるけど、 $(5 + 4)$ って何だろう？」という反応が予想されます。

式の意味で躓いている子どもの困り感を取り上げ全体で共有し考え合うことで、()の意味理解を深める場面が設定できそうです。

参加された先生の振り返り



どのような視点で本時のねらいを据えることができそうか、様々であることを、本校の先生方と考えてみたくなりました。また、子供のアイデアをつなげてあげる教師の出の必要性についても実感しました。子供同士のアイデアをつなげるのか、既習とつなげるのか、系統性でつなげるのか、「つなげる」にも多々あると思うので、明日からの授業が更に楽しくなりそうです。

中学校 数学

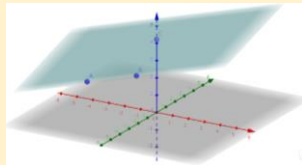
【趣旨】図形の性質を考察する場面において、次のことができるかどうかをみる
・事象を数・量・図形等に着眼して観察すること
・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解していること

3 空間における平面が1つに決まる場合について正しく述べたものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 1点をふくむ平面は1つに決まる。
- イ 2点をふくむ平面は1つに決まる。
- ウ 1つの直線上にある3点をふくむ平面は1つに決まる。
- エ 1つの直線上にない3点をふくむ平面は1つに決まる。

ICT

図形作成ソフト



授業づくりへの生かし方(例)

ICT 端末を活用し、一人一人が図形作成ソフトを操作しながら、1つの直線上にない3点を含む平面は1つに決まることを視覚的、感覚的に捉えられるようにする場面を設けることが考えられます。

生徒が自分で点の個数や位置関係の条件を変えて試すことで、点と平面の関係について分かったり、性質を見いだしたりしていく姿が期待できます。

また、成り立つことだけでなく、成り立たないことを捉えることで、より確かな知識及び技能の習得につながると考えられます。

参加された先生の振り返り



「全国学調」の問題を基に、日頃の授業改善へつなげるポイントから、数学科において、比較、検討、条件変え、対話、探究など、様々な大事なポイントを整理することができました。今回の研修を明日からに活かし、生徒たちと一緒に数学を楽しみ、一緒に力をつけていきたいと思ひます。今回の研修を教科会の中でも話題にし、先生方へ広げたいと思ひます。

中学校 英語

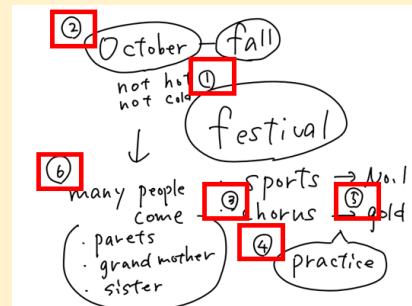
【趣旨】日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる

10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを公開しています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。



授業づくりへの生かし方(例)

調査問題のように、「ホームページを閲覧する不特定多数の人に向けて、学校紹介文を書くために、学校生活の中から紹介したいものを1つ取り上げる」といった目的や場面、状況等を設定します。そして、書く前に右図のようにメモしながら自分の考えを広げていきます。そして、メモを俯瞰してどのような順番で表現したらよいか番号をつけて整理することで、まとまりのある文章(文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章)を書くことにつながっていきます。



参加された先生の振り返り



学習指導要領で求められている資質・能力の育成につながる授業をしていかなければならないと改めて感じた時間でした。自分の授業を振り返ってみると、どうしても「書くこと」や「読むこと」の各領域で指導内容に偏りが出てしまっているところがあるので、どの指導項目も満遍なく扱えるようにし、それぞれの項目について、具体例や授業を作っていく上でのポイントを生かしていきたいです。

7月下旬に、各校に「全国学調」の結果が送付されます。児童生徒の「学習の状況」を把握し、各校で目指す子供像の具現に向け、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図り、学習指導要領で求められている資質・能力の育成につながっていきましょう。



夏休み期間中もご活用いただけます

「ICTを活用した児童生徒の学習状況フィードバックシステム」

オンライン説明会



目的 学習状況フィードバックシステムの活用開始にあたり、各校が活用の見通しをもち、円滑な実施につなげるため

日時 7月6日（木）16：00～16：45
※15：45から入室可

Zoom ミーティングID：865 7154 5382 パスコード：0706

内容 (1) 学習状況フィードバックシステムって何？
(2) 子供たちはこう使う！タブレットで体験！
(3) 今後のスケジュールは？

参加対象者

教頭先生、研究主任、ICT担当者、中2教科担任、小5担任等
※各校1名以上の参加に御配慮ください。

準備品 ・パソコン等（Zoomに入室するためのもの）
・タブレット等（説明会で実際に操作するためのもの。児童生徒が使用している端末、または同じモデルのものが望ましい）

○説明会に参加できなかった学校、もう一度聞きたい先生のために、説明会の動画を配信します。（7/10（月）～）

<https://www.tokyo-horei.co.jp/cbt/nagano/>